



藤田裕喜  
自民党市議団

### ベビーファースト運動への参画について

**問** 青年会議所が進めるベビーファースト運動への参画を宣言することについて、どう考えるか伺う。

**答** 既に蒲郡青年会議所と協議をしており、年内の参画・宣言を目指して準備を進めている。今後、活動宣言及び具体的な行動アクションプランを示していきたい。

**問** 具体的にどのような行動、施策につなげていくのか伺う。

**答** 「子どもを産み育てやすい蒲郡」の実現に向け、蒲郡子ども子育て支援計画や母子保健の推進に基づき今後検討していく。

**問** 市内の団体や企業に対して、市からベビーファースト運動への参画を呼びかけてはど

うか。また、市、団体企業、市民協働の取組としてイベントを開催する等、市全体へ運動が広がるようサポートしてはどうか。

**答** 子育て支援は市の取組だけではなく、地域や働く場でも子育てしやすい環境づくりを理解し、取り組んでもらうことが重要である。現在、具体的なイベント等は予定していないが、市全体でベビーファースト運動の理念が広がるよう、地域の企業や団体とともに課題解決のための必要な取組について、蒲郡青年会議所とも情報交換しながら検討していきたい。



柴田安彦  
無会派

### 平和行政と教育について

**問** 平和首長会議の3つの目標「核兵器のない世界の実現」「安全で活力のある都市の実現」「平和文化の振興」の中で、核兵器禁止条約の批准推進も政策として掲げている。市も会議の一員として、政府へ要請を行うべきではないか。

**答** 現時点で核兵器禁止条約の批准を国に要請していく考えは持っていないが、ロシアの核兵器による威嚇など、人類の生存に脅威と不安を与える事態に直面している現在、世界の恒久平和の実現に向け新たな行動を起こしていくことが大変重要だと考えている。

折しも今年には蒲郡市民憲章制定から50周年で、市民憲章の前文に

ある「明るい豊かな郷土をつくる」ためには、平和に対する取組を進めていくことが必要と考え、非核平和都市宣言を行い、戦争や核兵器のない恒久平和の実現を訴えていくことにした。

**問** 現在、憲法9条改正や核抑止力のために核を配備すべきではないかという議論もされているが市長の考えを伺う。

**答** 私自身は、自治体の長として、政府の取組を支持しているが、核兵器の廃絶を目指していくことが肝要であり、そのための国民的な議論が広がることを願っている。



林 大須賀  
自民党市議団

### 下水道事業のこれから取組

**問** 下水道事業の経営方針や将来像はどのようなか。

**答** 下水道事業は、快適な市民生活のために必要不可欠な公共下水道の普及を促進し、長期的に安定したサービスを提供し続けることを経営理念としている。下水道事業経営戦略で、令和12年度に経費回収率が100%以上となるよう使用料の改定を行い、使用料収入を増やすために水洗化率の向上に向けた啓発活動を進め、事務の効率化を図るべく広域化・共同化を検討し、経費の削減に取り組み、安定的な経営を目指す。

**問** 汚水処理原価が高いことが問題と考えるが、方策はどのようなか。公共下水道の供用

開始から45年経過し、処理場の維持管理費が増えているなどが考えられるが、ストックマネジメント計画を策定し、効率的な事業運営を進めていく。

**問** 汚水を豊川流域の豊川浄化センターへ送水することについてどのようにか。

**答** 蒲郡市下水道基本計画は7年度に見直しを予定している。計画では、下水道浄化センターを廃止する予定はないが、下水道事業全体のストックマネジメント計画を策定する予定となっており、その中で、下水道浄化センターの将来像について検討していく。



下水道浄化センター